

●イベントの打ち合わせ会議の提案

里山の会がここまで躍進出来た大きな力は事務局会議を休むことなく毎週開催して情報を出席者が共有出来てきたからだと言いつつ切ることができると思います。約 25 年が経過し、これからは出席者がそれぞれ取組の素案を練り上げる場面を経て事務局会議に提案するとさらに充実した取り組みになるのではないかと思います。そのために少なくとも次のような打ち合わせの会議を考えました。今年はこうした試みをしてみようと思いますのでよろしくご協力をお願いします

1. イタセンパラ対策打合せ（太田、福井、森島、有田）
2. 木津川希少種植生調査管理業務対策 除草作業と生育調査（有田、太田、森島、播川）
3. 交響プロジェクト対策打合せ（森島、大村、森、山村）
4. 魚とり実施打合せ（福井、森島）
5. 植物観察会打合せ 木津川の調査等（伊藤、篠原、光田）
6. 昆虫観察会打合せ（野村、金田）
7. サインペン製作打合せ（木下、竹島、山村）
8. 里山農園運営相談会（森島、大村、篠原）
9. 木津川河川レンジャーとの打ち合わせ（光田、福井、山村、中尾、中西、赤畑）

で実行しようと計画しています。皆さんの中で積極的に参加しようと思っておられましたら予定をこの週刊ニュースでお知らせしますので気楽にご参加ください。

●2022 年度京都府地域交響プロジェクト交付金額 85 万円が決定する

京都府地域交響プロジェクト交付金申請で限度額 300 万円の申請を行っているのは宇治市から 2 組織で城陽市、木津川市、からそれぞれ 1 組織、そして里山の会が京田辺市からの 5 組織でした。私たち里山の会は会費で運営していますが、すべてのイベントを公募して親子で参加していただけることを中心に事業を展開することを基本に「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」活動を展開しています。2022 年度は 14 項目の事業などで 4000 人近くの参加者をお迎えしました。この交付金制度は開催場所が京都府下であれば 2/3 が交付されるもので里山の会は大いに申請をして苦しい財政をカバーしていただけてきました。過日の通常総会では申請書や実施報告書の事務処理が大仕事だからということで申請を中止すべきではないかという意見が発言されました。もしそのような中止という事態になればイベントを半分以下の実施となり定番事業も開催できなくなってきます。私たちは国交省の業務を受注できているので自己負担の 100 万円でこれだけ多くの事業を実行できるのです。多少申請業務の事務処理が大変でもこれくらいの作業をこなさなければならぬのではないのでしょうか。また実際に計画申請は子育てに大変役立つ自然を大いに利用した活動で、学ぶことを取り入れたものになっているのです。川の活動でも農園活動でも「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」のスローガンの実現のために 2023 年度も多くの皆さんのご協力をいただきますように願います。

●植物調査の復路で交通事故が 発生

これまでは、随分交通事故について注意を払ってきました。特に高齢者によるブレーキとアクセルの踏み間違えによる突っ込み事故が新聞紙上をにぎわしてきています。里山の会の多くのメンバーが 80 歳を超える皆さんが通常のように車を利用しています。他山の石とするように互いに喚起を行ってきました。しかし、5 月 23 日の午後 2 時前に植物調査に出かけていただきました復路

で交通事故が起きました。直前の様子は明確にわかりませんがガードレールに激突の上、前の車2台の横脇を接触しながら車庫入れをしようとしていたトラックに衝突してしまいました。同乗者の一人は眼鏡が壊れ、顔面側部を裂傷されました。命に別状はなかったことが不幸中の幸いでした。お互いに交通事故には十分注意しながら行動をしたいものです。

●5月27日の植物観察会には数人の申し込みがありました

この地域の少し前は京田辺市の湿田地域で梅雨に多めの雨が降ると冠水が引き起こされていた地域でした。今京田辺市の水道水は木津川の伏流水（地下水）をくみあげる井戸が見られるところです。そして防賀川が八幡まで幹線排水路として完成されても不十分で、北浜に排水機が設置されて冠水事故は幾分少なくなりました。その後京田辺市の天井川の一つ馬坂川の切り下げ工事がされたり、田辺高校が建設されたり、田辺府営団地ができるなどして神矢樋門に排水機場が設置されたりして草内や東地区の恒常的な農地冠水水害が頻繁に起きなくなってきました。今の堤公園や水道水源地とされているところは絶えず冠水が引き起こされてきた中心地域なのです。現在田辺府営団地付近にある樋門はこうした水害を下流に拡大せずに神矢樋門から木津川に直接放流するための施設としての役割があるのです。こうした施設があちこちにあるのが今回のコースで確かめられます。植物観察会には光田重幸新理事長や伊藤千恵子植物担当者もご参加いただける予定で、これまでにない充実したスタッフで実行できます。5月27日9時30分に近鉄新田辺駅西口にお集まりください。時間になれば木津川に向かって出発します。

●舞鶴からメールが届きましたので紹介します

5月20日に舞鶴市神崎海岸で開催されたアサギマダラ観察会について当日捕獲されたアサギマダラの中に1頭マーキングされたものがあるとのことでしたが、その個体が5月1日に鹿児島県の種子島から放蝶されたものであることが判明し、放蝶者からお礼のメールをいただいたと、講師の山段眞彦氏からお知らせがありました。19日間かけて北東へ665キロメートルを移動したことになるそうですが、当日現場にいた者として改めてロマンを感じます。

今後は神崎海岸から放蝶された個体が、どこかで再捕獲されて便りが届くことを期待したいと思います。黒田 悠三

